

特別展示「サンフランシスコ講和への道」

サンフランシスコ講和関連史料

主な展示史料

吉田茂関係資料

●硯、筆、墨、水差し等一式



吉田首相が講和会議に携行したものです。桐箱裏には「桑港媾和条約記念素淮書」との吉田直筆の揮毫があります。「素淮(そわい)」とは吉田の号で、イニシャルの「S・Y」をもじったものです。
(安斎正明氏寄贈)

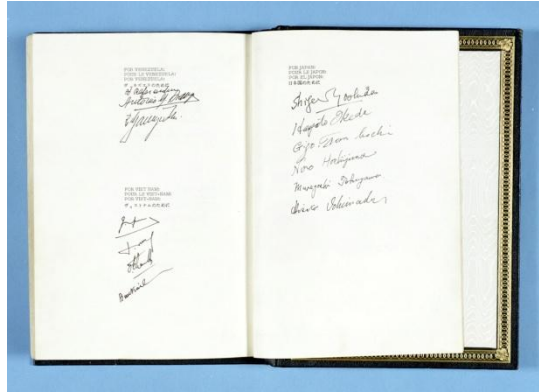
●万年筆



日米安全保障条約の調印式にて米国側が準備したものです。「SECURITY TREATY 1951」と刻まれています。SHEAFFER 社製。ただし実際には、平和条約への署名と同様に、吉田首相は自分で用意した万年筆を使って署名したため、この万年筆は使用されませんでした。
(麻生和子氏寄贈)

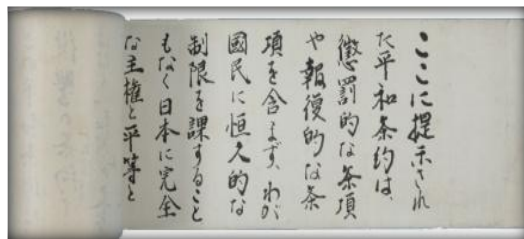
常設展示

●対日平和条約(認証謄本)〈レプリカ〉



1951年9月8日、ソ連など3か国を除く49か国の全権によって署名されました。日本側は順に、吉田茂、池田勇人(いけだ・はやと)、苫米地義三(とまべち・ぎぞう)、星島二郎(ほしじま・じろう)、徳川宗敬(とくがわ・むねよし)、一万田尚登(いちまだ・ひさと)の各全権が署名しました。

●対日平和条約受諾演説の原稿〈レプリカ〉

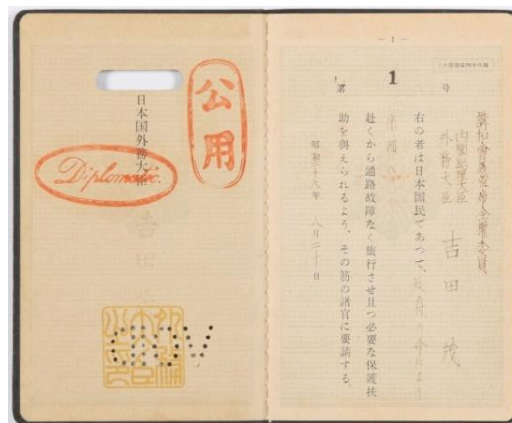


吉田全権による受諾演説は、9月7日夜に行われました。演説を日本語で行うことが決まったのは当日のことであり、演説の直前までかかって、数人が手分けして原稿を浄書し、順序通りにつなぎ合わせました。できあがった巻物は、外国人記者から、まるで「トイレットペーパー」のようだと評されました。

●日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約(旧・日米安保条約)〈レプリカ〉

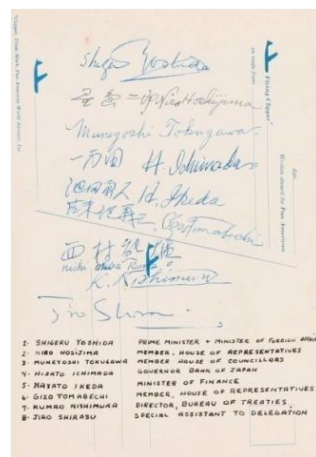
1951年9月8日、平和条約の署名直後に、サンフランシスコ郊外プレシディオにある米国陸軍基地施設内で署名されました。日本側は吉田全権が単独で署名し、米国側はアチソン国務長官、ダレス特使、ワイリーおよびブリッジス両上院議員が署名しました。

●パスポート〈レプリカ〉



講和会議に首席全権として参加するために吉田首相に発給された、戦後第1号の公用旅券です。

●講和会議全権団のサイン〈レプリカ〉



吉田首席全権をはじめとする講和会議全権団は、パン・アメリカン航空機で東京とサンフランシスコを往復しました。これらのサインは、機内食メニューの裏に、全権団一行が寄せ書きをしたものです。

(上から、吉田茂、星島二郎、徳川宗敬、一万田尚登、池田勇人、苫米地義三、西村熊雄、白洲次郎)